

## テント一週一文 (か) ——「プルサーマルの会」

(承前)

「この前の新松浦漁協の玄海原発再稼働反対海上デモのこと」と甘酒オーマは私の「イエイエ」にもめげず、なお私に尋ねてきます。「知ってるでしょう？」

「知っていますよ。あれは新聞にはあまり載っていませんね」

「福岡の新聞では大きくは取り上げていなかったわね。でもあのデモのことを詳しく書いている市民運動があるのよ」

「福岡？」

「佐賀市の『玄海原発プルサーマルと全基をみんなで止める裁判の会』」

「長い名前ですね」

「通称『玄海原発プルサーマル裁判の会』だけど、普通に話すときは『プルサーマルの会』って言うわ」

「名前がプルサーマルに関係しているから、フクシマを契機にして作られたっていう訳じゃないのですね」

「この会自身の発足は2010年2月なのだけど、それまでになが〜い歴史があるのよ。2004年に九電が玄海原発3号機でのプルサーマル実施を表明して、2006年に当時の古川佐賀県知事がそれを了承したの。2007年1月、市民団体が佐賀県知事に5万筆の署名を添えて直接請求して「県民投票条例案で意見を聴いて」と求めたけど、古川知事は「条例を制定する必要性は見いだせない」と、5万筆の意見を無視したのよ。いきなり世界で初のレベルのプルトニウム発電(MOX燃料発電)の実験場にされてしまう恐怖に、九州ではいろいろな反対運動が起こったけど、推進側は無視して強行、2009年に九電は日本初のプルサーマルによる営業運転を開始したのよ。そこで、『パンドラの箱を閉じるには、もう裁判しかない』と2010年2月にこの会が発足。2006年の知事の了承から2010年の会の発足までに佐賀県、九電、国への抗議行動や質問や要望、市民向けの情宣活動、啓発行動など100回は行っているのですって。発足してからも、説明会や報告会などの実施が300回って言うたわ。本当にエネルギーシユな会なのよ。ホラ、この前7月26日にも九電交渉をしているのよ」

甘酒オーマの説明の冒頭は長い。私は少し口を挟みたくなくて、『「裁判の会」ですからいろいろな裁判を提訴しているのじゃないか」と改めて尋ねた。

いままでジーンと聞いていた留守番オーマが、急に思い出したように大きな声で「ランソノカイよッ」と、尋ねた私にではなく、長い説明でのどが渴いたのかポットの冷たい水を飲んでいて甘酒オーマに向かって叫びました。

「そうそう、そうとも言えるわ」と二人のオーマは意気投合しています。

二人が意気投合しているのはいいのですが、私には分かりません。「あの〜、何ですか？ そのランソノカイって」と尋ねてみた。甘酒オーマが説明しようと身を乗り出します。この人は説明が好きなようです。留守番オーマはそれを手で制して、「いいのいいの。説明すると長くなるし、ランソノヘイを知っている人はランソノカイも直ぐ分かるから」と冷たいご宣託です。

この人はオーマだとかランソだとか意味のよく判らない単語を使う。それはいいとして、裁判のことが気になり「やはりこの会は裁判を提訴しているのでしょうか」と聞いてみた。自分ながら、これは行きがかり上の、1時間前に注いだビールのように気が抜けた質問に聞こえた。

「そう、やっぱり裁判ね」と、甘酒オーマは説明のテーマが出てきたので、こちらの気落ちには気付かないで「いざ説明！」の気合で応えてくれた。

「短くネ」と、留守番オーマは相変わらずである。

「2010年2月に発足して8月に九電を被告にして『玄海原発3号機MOX燃料使用差止訴訟』提訴。これは日本で初めてのプルサーマル発電差止め請求よ。2011年7月には、玄海2,3号機の再稼働差止仮処分を申請。同じく2011年12月には玄海1~4号機の運転差止を提訴。2013年11月には国相手の行政訴訟と4件提訴したのね」

「MOX裁判は2015年3月に判決があったのでしょうか」

「そうなの。敗訴。直ぐ控訴して第1回目の裁判が9月。2016年2月に結審したの」

「判決はいつだったの」

「2016年6月。国の核燃料政策をただ追随容認した、まったく不当としか言いようのない判決だったそうよ」

「上告はしたの」

「上告最高裁は憲法審よね。不利益な判例しか残せないと涙を吞んで、3号機を継続する他の裁判で闘うために断念したそうよ。でもね、2010年8月提訴から2016年6月控訴審判決までの間にフクシマは起こるし、九電が墓穴を掘って「やらせ問題」は発覚するし、玄海町長の核のゴミ受け入れ発言はあるし、川内原発再稼働はあるし、玄海原発再稼働は目の前だし、仮処分を含め4件の裁判は続いているし、報告会、ポスティング、学習会、九電への要請行動、政府交渉、各地の説明会への出席など年表を見ると、よくここまでやれるわと驚くわよ」

「この人はね」と留守番オーマは私を見て「タブレットを持っているから直ぐ『プルサーマルの会』のことを調べられるのよね〜」

「調べますよ。 <https://saga-genkai.jimdo.com/> がトップページですね。ワッ、大変な資料ですね」

「ホラ、活動報告の最後2017年6月の項に『玄海3・4号機再稼働差止仮処分・不当決定』ってあるでしょう。これは2011年7月に再稼働停止を求める仮処分申請をしたのだけど、今年6月に却下されたの。それを受けて高裁に即時抗告しているわ」

「本当に裁判の会ですね」

「裁判だけじゃないのよ。宣伝のビラやチラシや会報だってたくさん出しているのよ。ホラ、これがつい先日発行された「裁判ニュース」24号よ。これには6月の仮処分却下や抗告の説明や解説を会長の石丸さんが詳しく書いてるわ」

「これは読み応えのあるニュースですね」

「でもね、ほら

<https://saga-genkai.jimdo.com/%E8%A3%81%E5%88%A4%E3%81%AE%E4%BC%9A%E3%81%A8%E3%81%AF-1/> にも書いてあるでしょう。この会のメンバーの思っていることは『普通の生活を守りたい。それだけ』なのよ。原発のある生活は普通じゃないのよ。黒澤明って知ってる？」

『羅生門』の？」

「そう。黒澤明が 1955 年、もう 60 年も前に『生きものの記録』って映画を作っているのよ。1954 年に第五福竜丸被爆の事件があって、翌年の作品。水爆が存在しているっていう狂気の時代にどうして平然と生きておれるのかという質問を正面から提示している映画よ」

留守番オーマは「誰が出てるの？」と映画のことは詳しくないようです。

「三船敏郎。『プルサーマルの会』のメンバーが玄海原発を目の前にして＜普通の生活をしたい＞と訴えているのは、黒澤明が 60 年前に水爆を目の前にして＜普通に生きる生活を手にしたい＞と訴えたのと同じ水準なのよ」

甘酒オーマの時空を越えた説明には留守番オーマは反応の仕様がなくて、私に「判る？」と聞きます。

「判りますよ。核の想像を絶するエネルギーを前にしては、人間は普通の生活をおくれない、核兵器も原発も同じく人間を尋常な生活から引き離すってことでしょう」

「拍手してあげたいわ。でもお腹すいたわ。甘酒は美味しかったわね～」と、せっかくの私の答えにも素直には反応しないオーマです。

「また作ってくるわ」と、こちらのオーマは無邪気に答えています。（以下次号）

（文責 栗山次郎）2017 年 8 月 21 日公開

-----  
添付：[玄海プルサーマル裁判ニュース 第 24 号（2017 年 8 月 20 日発行）](#)